
共同研究「古代中国語の敬語に関する社会言語学的研究」経過報告

彭 国 躍

研究目的：

『礼記』には「天子死日崩、諸侯日薨、大夫日卒、士日不禄、庶人日死（天子の死去を崩と称し、諸侯には薨、大夫には卒、士には不禄、庶には死と称する）」という記述がある。これは古代中国語において、「死」という概念を表す言葉が社会

的身分の違いによって表現し分けられていたことを示している。この記述は古代中国語の社会的属性の一例として多くの文献に引用されている。しかし、礼にかなう行動規範を示すことを目的とする『礼記』という書物の性格を考えれば、この記述をそのまま古代中国語の運用事実そのものとし

て理解するには、まだ証拠不十分といわざるを得ない。『礼記』の記述の真実性を検証するために、古代中国語における「死」に関するさまざまな表現の運用実態を調べる必要がある。したがって、今回は『礼記』とほぼ同時代のテキスト『史記』の言語資料を使って「死」の表現異形とその社会的属性について考察する。

進行状況：

- ① 『史記』の版本調査はすでに終了した。『史記』は現在いくつもの版本が残っているが、本研究は、清朝金陵局本を定本とした中華書局本を調査の対象とする。このテキストは130巻の完全版として現在もっとも広く受け入れられている。
- ② 『史記』に使われた「死」の形態と出現数の調査も終わった。結果は次の通りである。
一字：卒(1034)、死(941)、崩(220)、薨(181)、亡(14)、終(10)、没(10)、故(6)、夭(3)、歿(2)、喪(2)、償(1)、隕(1)、賈(1)
二字：百歳(5)、没世(3)、物故(2)、寿終(2)、

千秋(2)、万歳(2)、没齒(1)、物身(1)、万世(1)、棄捐(1)

三字：棄群臣(2)、填溝壑(2)、捐館舍(2)、天年終(2)、山陵崩(1)、捐賓客(1)、不立朝(1)

四字：宮車晏駕(6)、千秋万歳(3)、登仙于天(2)、天子下席(1)、天年下世(1)、天崩地坼(1)

- ③ 今後の研究方向として、これらの表現が使われた人物の身分、年齢、性別などの社会的属性を調べ、それと表現異形との間に現れた相関関係を分析していく。

